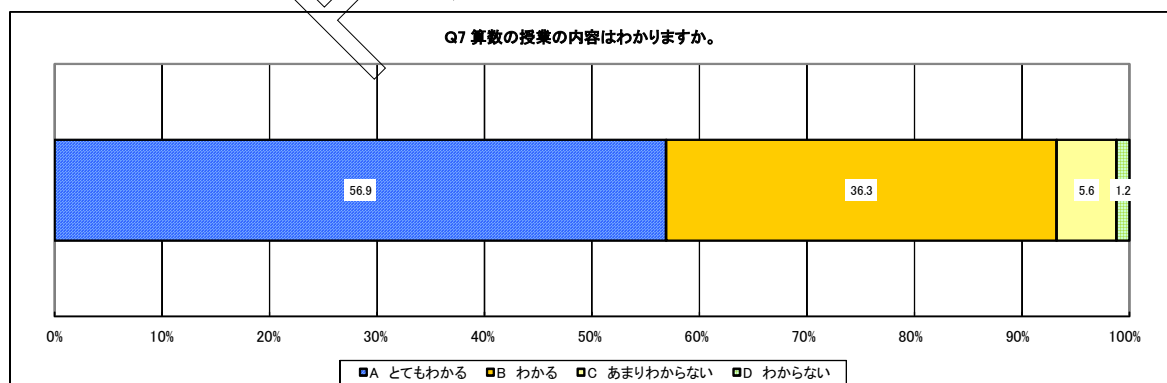
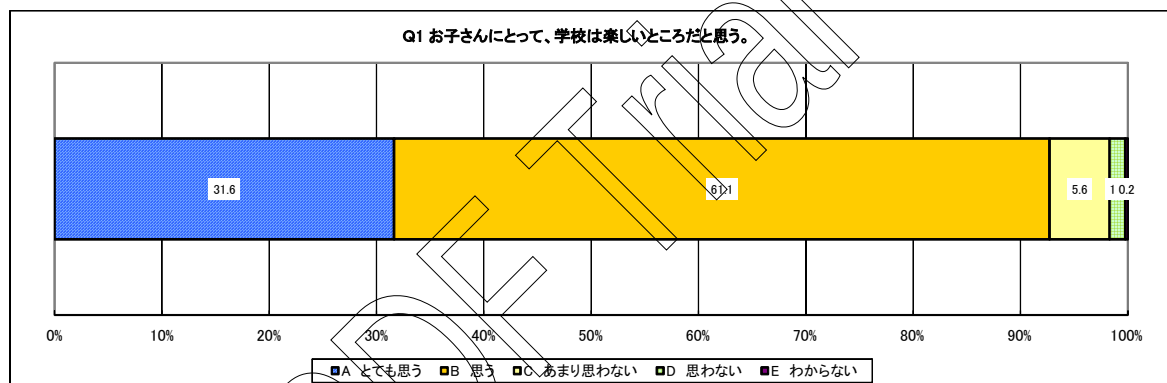
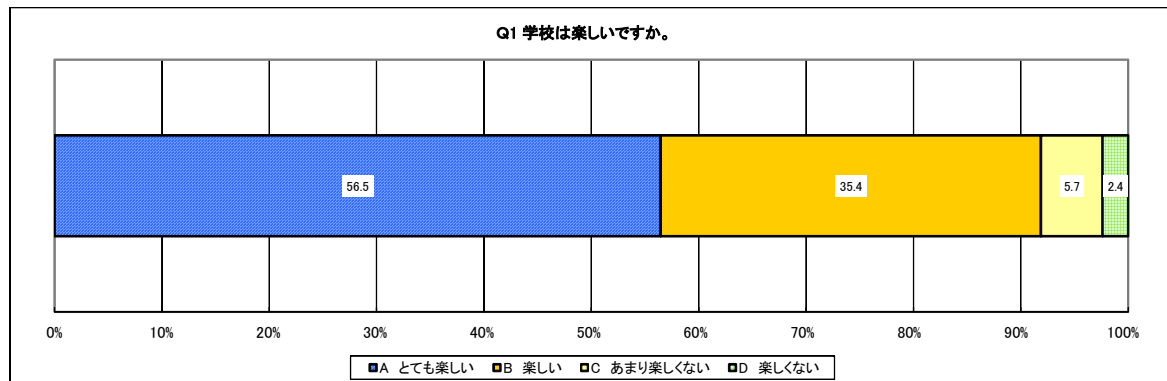
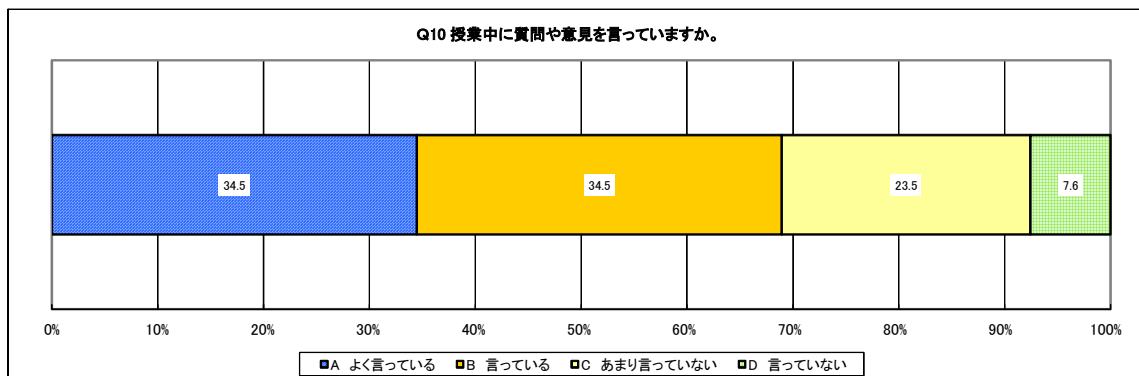


甲斐市立敷島小学校 自己評価書（後期）	
平成26年1月24日（金）作成	
校長 「志村 隆」	記述者 職名（教頭）「坂本 祐二」
学校教育目標 「知・徳・体の調和のとれた 人間性豊かな子どもの育成」 ① 生きてはたらく確かな学力を身につけた子ども ② 心の豊かな子ども ③ 明るくたくましい子ども	
学校経営方針 (1) 全職員は、児童・保護者・地域の実態を的確に把握して、学校教育目標の実現に向けて努力する。 (2) 「生きる力」をはぐくむ適切な教育課程の編成と実施に努めるとともに、学習指導要領に則り、指導計画の改善と充実に努める。 (3) 教育活動を推進するにあたり、常にPDCAに基づいた振り返りと改善を行い、その充実に努める。 (4) 授業時数を十分に確保し、指導内容・指導法の工夫などにより学習の基礎・基本の定着を図る。 (5) 言語活動の充実と活用型学習活動を取り入れることで、思考力・判断力・表現力の向上をめざす。 (6) 体験学習を重視し、地域の人・文化・自然等の教育財産の活用を図り、自ら学ぶ意欲や共に学び合う態度の育成及び実践力の向上に努める。 (7) より深い児童理解に努め、指導方針や内容の共通理解を図る中で適切な生徒指導にあたる。 (8) 特別支援教育についての啓発を図り、個々のニーズに応じた適切な指導が行える校内体制の充実に努める。 (9) 家庭や地域社会との積極的な交流体制の充実に努め、地域に開かれ、地域に信頼される学校づくりをめざす。 (10) 学習環境を整備し、明るく楽しい学校づくりと、健康・安全教育を推進する。 (11) 教職員の資質の向上を図るとともに、職員の長所を生かし、協働して教育活動に専念できる職場づくりに努める。	
1 全体評価 ・ 教職員の自己評価から、職員は教育活動及び学校運営（学校経営、学校運営、学習指導、生徒指導、地域との連携、学校の特色等）について、「そう思う」「ややそう思う」と回答した割合が、各設問とも90%以上であった。これは学校経営方針がよく理解され、一年間を通じて教育活動や分掌処理に努めたからであると考ええる。 ・ 児童アンケートの「学校が楽しいですか」という設問に対し「とても楽しい」56.5%、あるいは「楽しい」35.4%と回答し、合計91.9%で、前期と同様90%を超えている。低学年に比べ高学年においてはその割合が若干下がるものの、学校生活に満足していることがうかがえる。なお、保護者アンケートの「お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う」の設問に対しても、「とても思う」「思う」が合わせて92.7%と、本校の教育活動に対し概ね理解と満足をしている状況がうかがえる。 ・ 授業については、「算数の授業の内容はわかりますか」という設問に対し93.	

2 %の児童が「よくわかる」「わかる」と回答しており、前期に比べ1.3ポイント増加している。また、「授業中に質問や意見を言っていますか」という設問に対して、「よく言っている」「言っている」の合計が、69.0%で、前期に比べ6.0ポイント減少した。主体的に学習に臨む態度を継続的に育成していく必要があると考える。



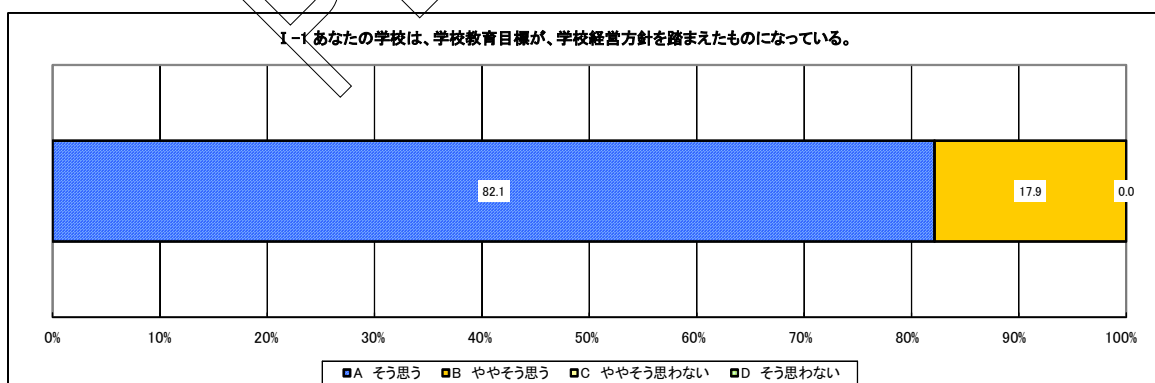


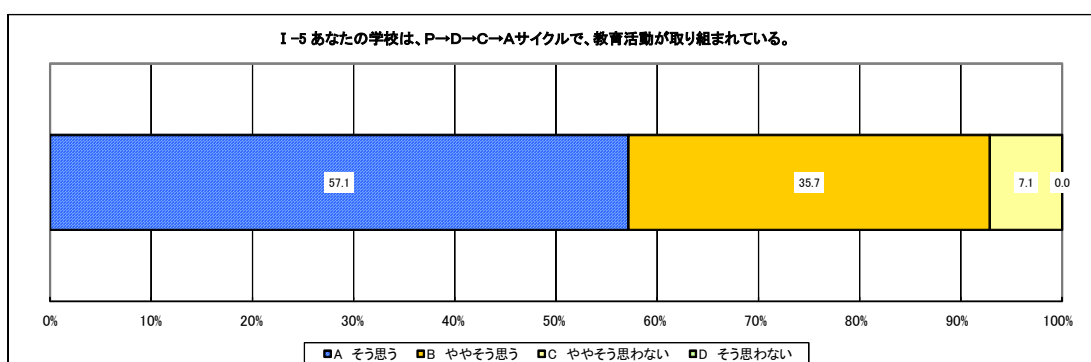
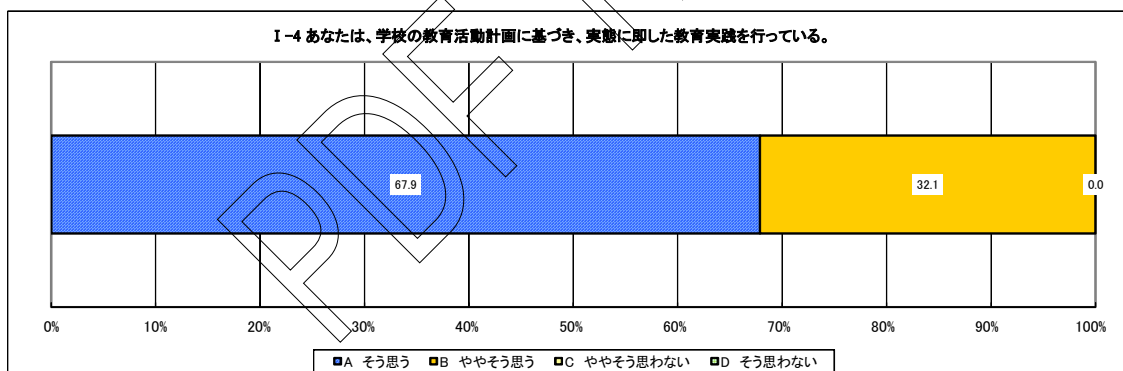
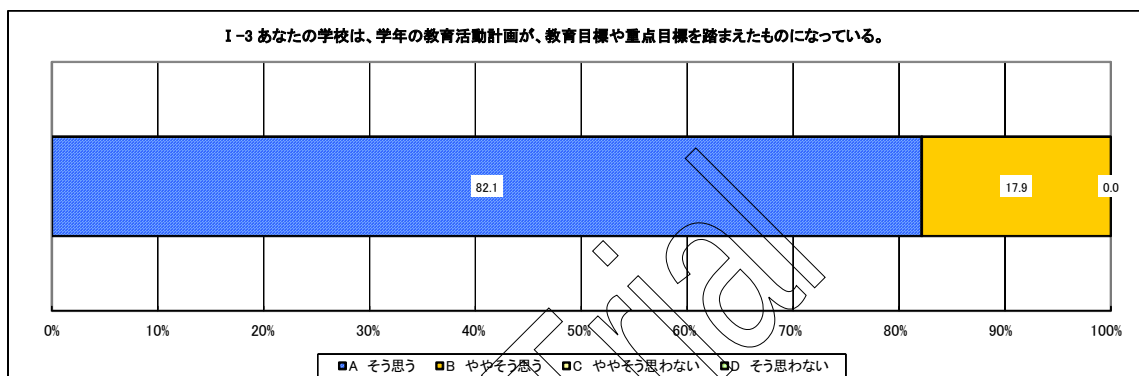
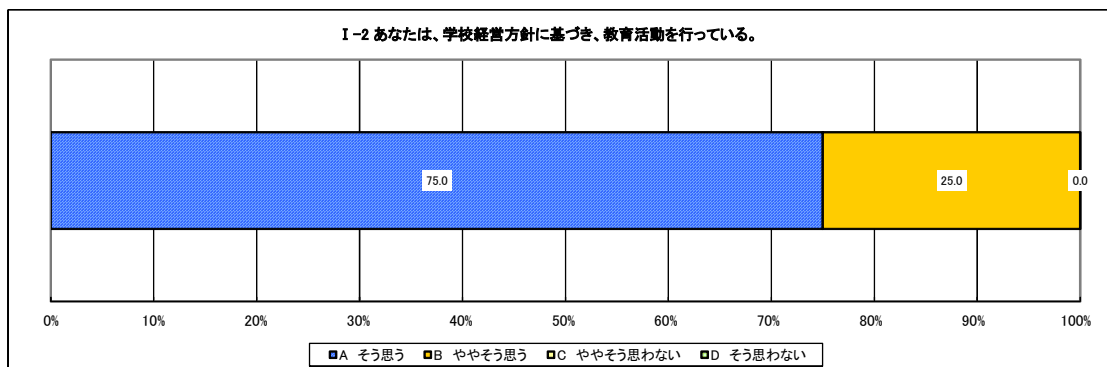
2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成
状況

- ・教職員の自己評価の設問「あなたの学校は、学校教育目標が、学校経営方針を踏まえたものになっている」、「あなたは、学校経営方針に基づき、教育活動を行っている」、「あなたの学校は、学年の教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている」の回答はいずれも肯定的な評価をしている。具現化に向けての教育実践についても、「あなたは学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている」で、「そう思う」「ややそう思う」が合わせて100%となっている。このことは、日常の教育活動が常に学校教育目標達成に向け、学校経営方針の重点を受けて実践されていることの表れであると考えられる。
- ・P→D→C→Aサイクルで「教育活動が取り組まれている」「生かした教育活動を行っている」の両設問とも、それぞれ「そう思う」「ややそう思う」が合わせて、いずれも92.0%以上であった。これは、常に教育活動を進化、改善しようとしている結果の表れと考える。





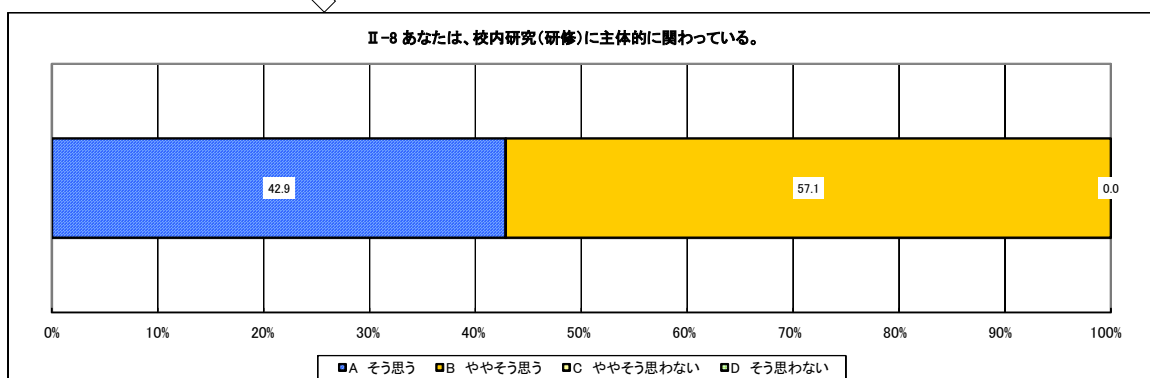
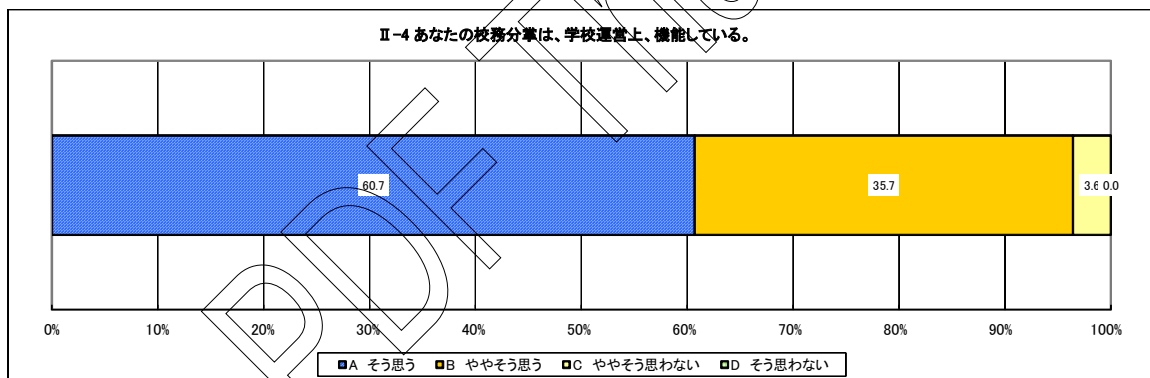
- ・ 学校教育目標「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもの育成」の達成に向け、確かな学力の定着については、校内研究を中心に指導法の更なる改善に向けた実践的な研修（研究授業中心）を、また、豊かな心の育成については、道徳の時間の指導方法の工夫改善、自然体験や勤労・奉仕体験等の体験活動を教育活動全体へ適切に位置づけるようにする。そして、健やかな

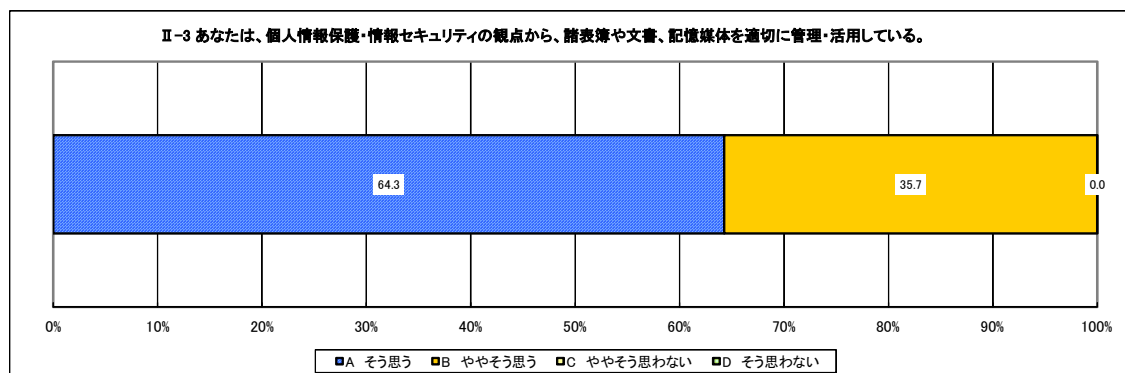
体の育成については、体力テストの結果や児童の実態を踏まえて、引き続き異年齢集団や全校での活動を工夫し、運動の日常化を図りながら体力の向上を図る。

- ・学校教育目標設定にあたっては、これまで以上に地域や学校、児童の実態に即した教育目標を設定し、特色ある学校づくりの推進に努める。

Ⅱ 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）

- ・校舎内外の施設設備の定期点検や日常の点検結果に基づく修繕等については、職員の意識も高く、事故防止に積極的に取り組んでいる。しかし、危機管理、特に不審者侵入に関しては、学校施設の状況（門扉の施錠や防犯設備が未整備）に引き続き課題がある。
- ・教職員アンケートで「校務分掌は学校運営上機能している」の設問に対し、「そう思う」が60.7%、「ややそう思う」が35.7%であった。また、「校内研究（研修）に主体的に関わっている」の設問に対しても、「そう思う」「ややそう思う」が、それぞれ42.9%、57.1%であった。
- ・教職員の評価で「あなたは、個人情報保護・情報セキュリティの視点から、諸表簿や文書、記憶媒体を適切に管理・活用している」の設問に対し、「そう思う」「ややそう思う」が合わせて100%であった。個人情報保護に関する職員の意識の高さがうかがえる。





改善策

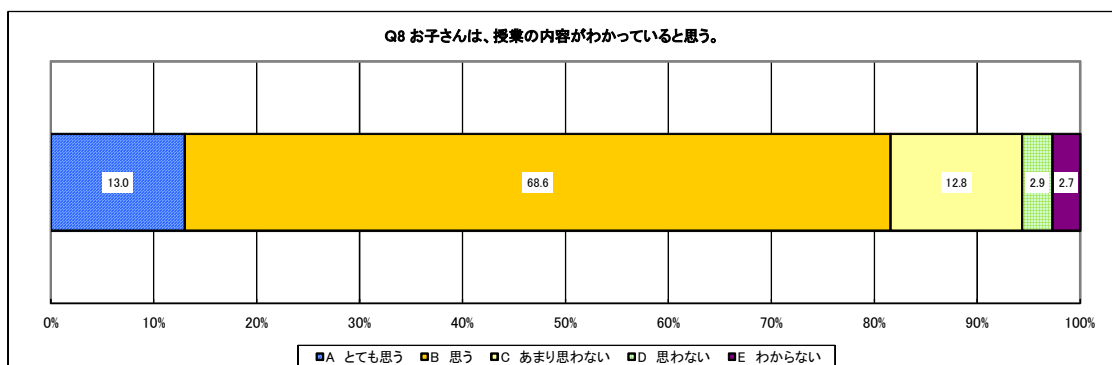
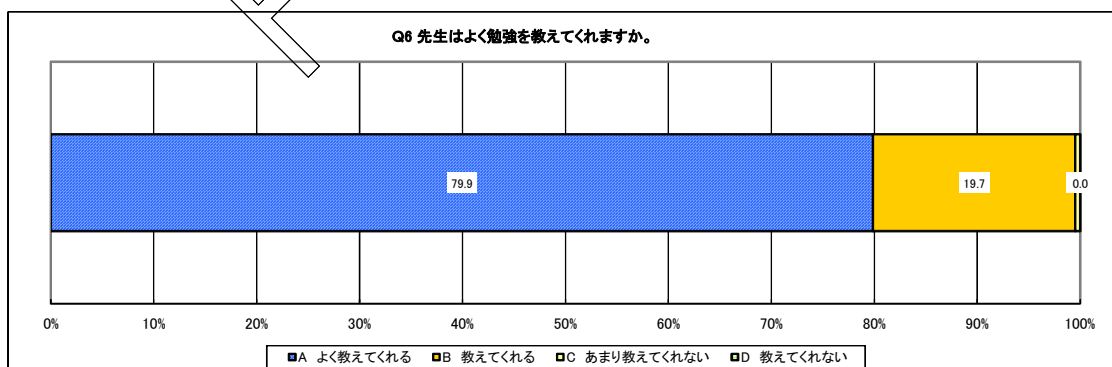
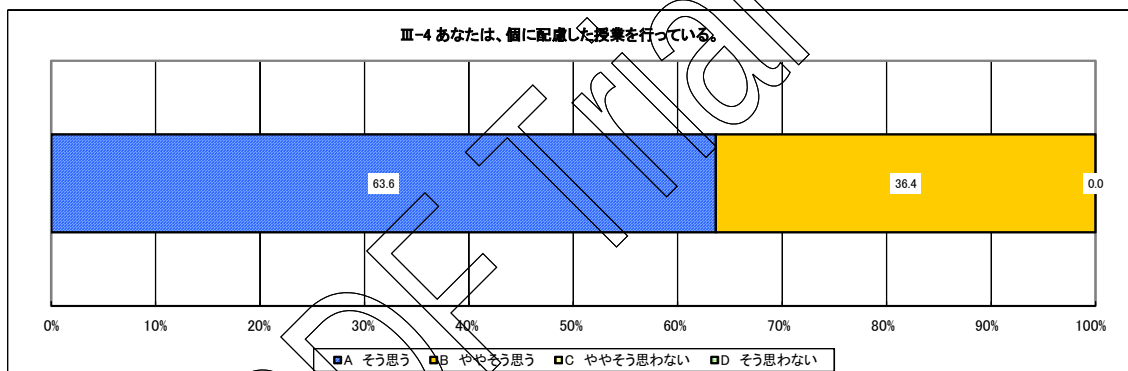
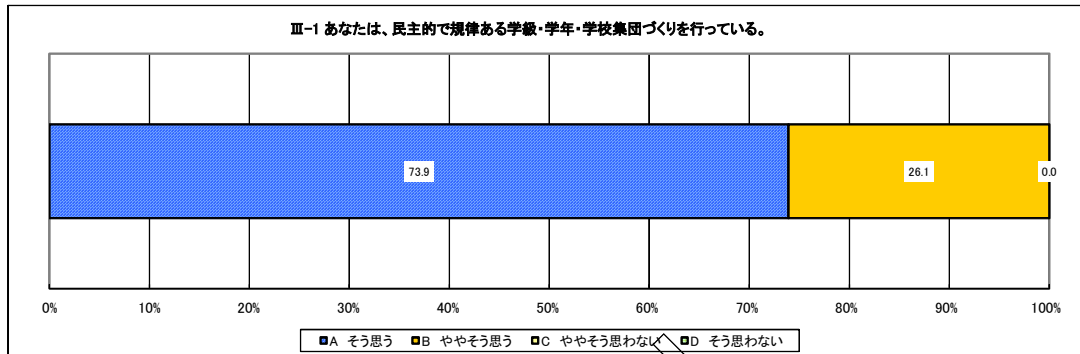
- ・事故防止については、細部にわたる安全点検と迅速な改善を今後とも継続的に行うことは当然であるが、交通事故防止（含む通学路の安全点検）や水難事故防止、熱中症対策、有害紫外線対策、感染症対策等に関わって、児童に対する安全教育の徹底を引き続き図っていく。
- ・危機管理については、マニュアルの充実（東日本大震災を受けての変更点の確認）を引き続き行っていく。特に児童の安全な行動の取り方や対処法、避難場所の確認などと併せ、保護者や地域、関係機関と連携しての実効性の高い防災訓練と防災教育を積極的に実施する。防災講話を学年のブロックに分けての実施をここ数年行ってきた。効果的と思われるので今後も継続していく。
- ・校務分掌の整備と各学年や分掌間の連絡調整と情報交換を緊密に行う。また、分掌分担を行う上で、個々の能力、実績、意欲を加味し適材適所に配置するようにする。
- ・校内研究のテーマである「思考力・判断力・表現力を高めるための言語活動のあり方」に向けての成果を生かし、個別・グループ別、習熟度別など指導方法の工夫改善を図るとともに、研究授業中心の実践的な研究の推進に努める。
- ・職員会議においては、今後ともその役割である「学校経営方針の周知徹底」「学校課題に対する共通理解」「情報交換を通じた連絡調整」を図る場として、その機能を効果的、効率的に活用していく。

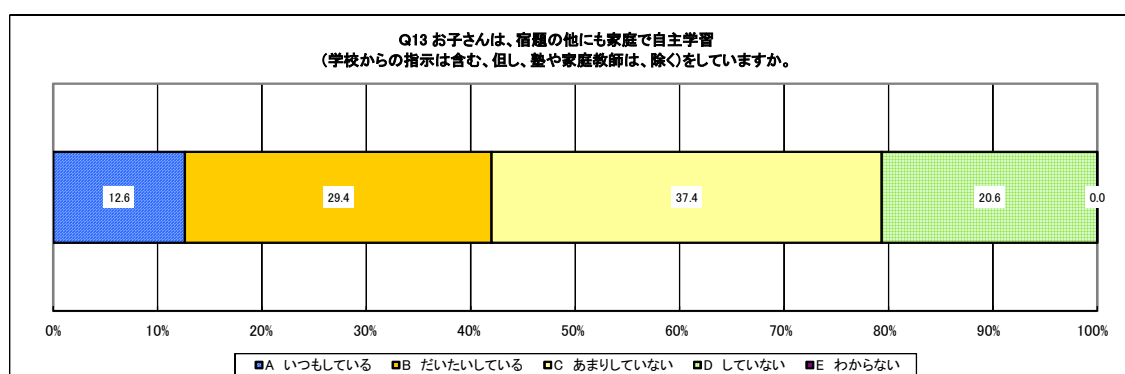
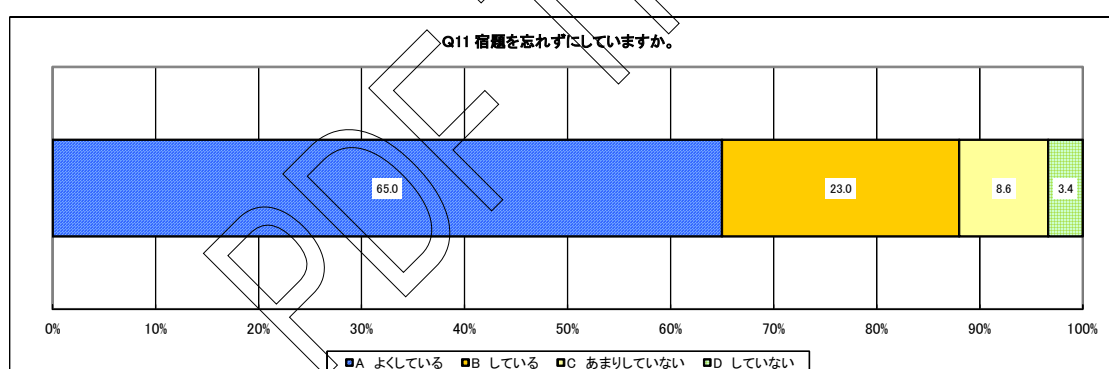
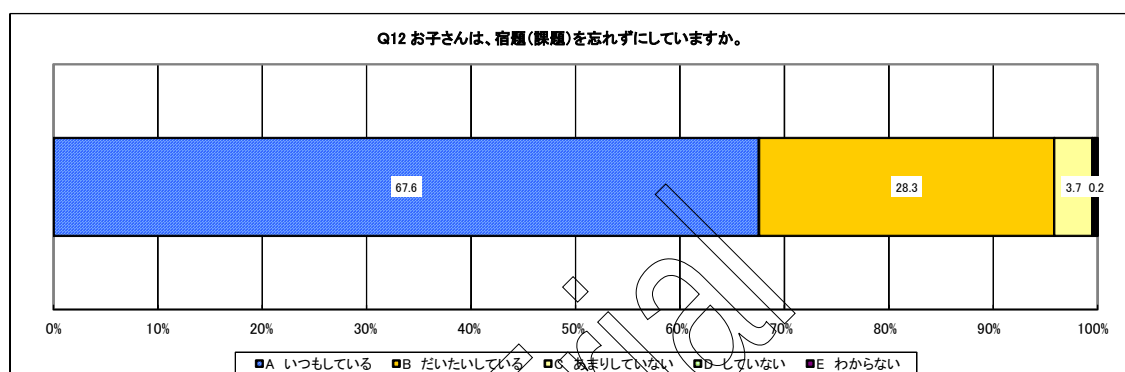
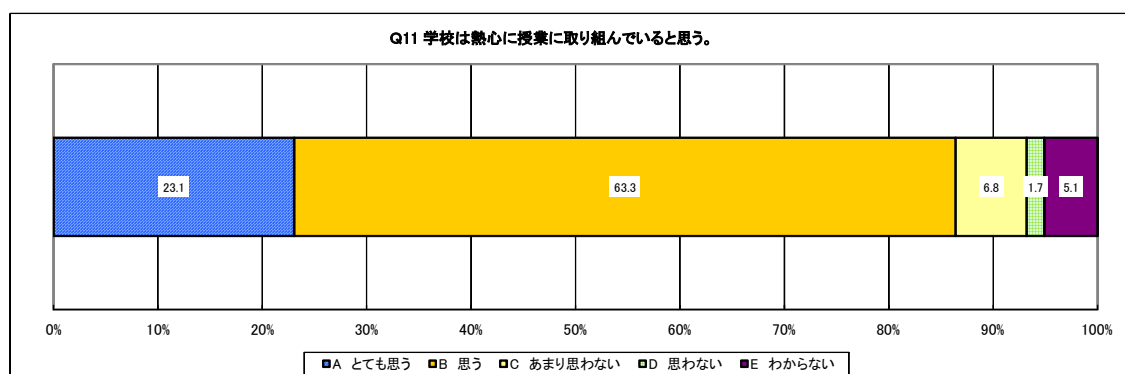
Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

達成状況

- ・教職員アンケートで「民主的で規律ある学級・学年・学校集団づくりを行っている」「個に配慮した授業を行っている」の設問に対し、両設問とも「そう思う」「ややそう思う」が100%であった。これは、絶えず学習習慣づくりと個に応じた指導の工夫を心がけている表れであると考えられる。このことは、児童アンケート「学校の授業は楽しいですか」の設問に対し、「とても楽しい」が48.8%、「楽しい」が41.1%、「先生はよく授業を教えてください」に対し、「よく教えてくれる」が79.9%、「教えてくれる」が19.7%、といった結果と合致している。また、保護者アンケートで「お子さんは、授業の内容がわかっていると思う」「学校は熱心に授業に取り組んでいると思う」の両設問に対し、「とても思う」「思う」が、それぞれ81.6%、86.4%と回答しており、本校教員の学習指導に対し、概ね満足しているものと捉えることができる。
- ・宿題については、保護者アンケート「お子さんは宿題を忘れずにしますか」の設問に、「いつもしている」「だいたいしている」が合わせて95.9%で

あった。同様の児童アンケート「宿題を忘れずにしていますか」の設問に対し、「よくしている」「している」が合わせて88.0%で、前期とほぼ同じである。一方、保護者アンケートで、宿題以外の課題に対しては、「宿題の他にも家庭で自主学習をしていますか」では、58.0%が「あまりしていない」「していない」と回答している。





改善策

- ・ 確かな学力を定着させるために、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成、主体的な学習態度の一層の育成を図る。このため、体験的な学習や問題解決的な学習、言語活動を教育活動へ適切に位置づけるようにする。言語活動の充実に関しては、言語環境づくり（会話、あいさつ、放送）や意図的な言語活動の日常化を図る取り組み（1分間スピーチ、学習感想等）を更に充実させていく。また、自学学習のすすめを積極的に行

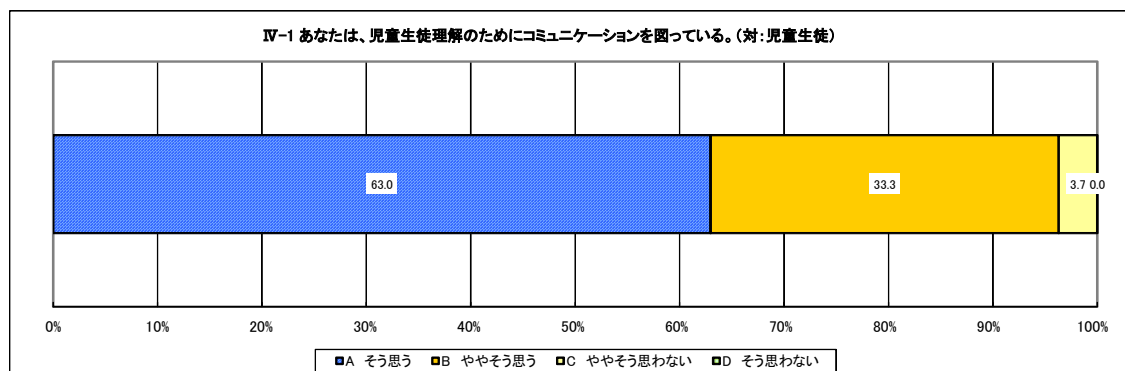
い、主体的な学習習慣を一層身につけていく。

- ・主体的な学習態度の育成については、自己評価や相互評価、ポートフォリオ（学習経過資料等）などの多様な評価から、よさや成長の様子を積極的に評価することにより児童の学習意欲を引き出していく。
- ・家庭学習については、発達段階に応じた内容と量を考える中、家庭と連携し習慣化し、学年が上がるに従って、自発学習へ取り組む姿勢を身につけていく。

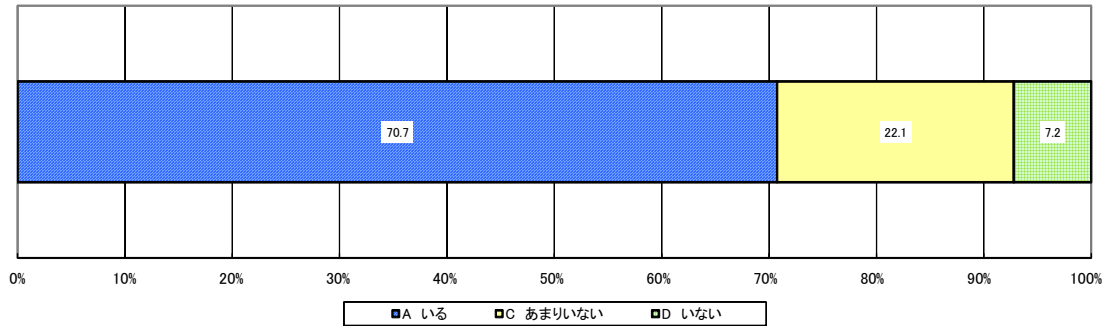
IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

達成状況

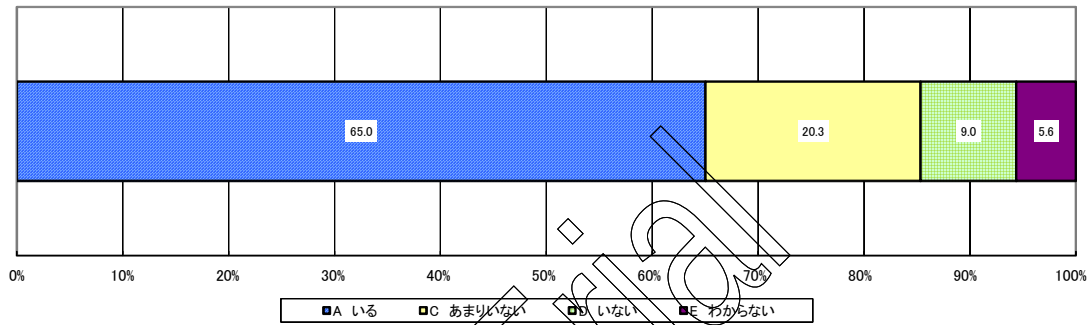
- ・生徒指導に関連する設問「教師と児童との関係～相談できる先生がいる」に対し、教職員は「児童理解のためのコミュニケーションを図っている」の設問に、「そう思う」「ややそう思う」が合わせて96.3%であるのに対し、児童は「もしこまったことがあったら、そうだんできる先生がいますか」の設問に対し、「いる」が70.7%であった。さらに保護者は「お子さんのことで相談できる先生がいますか」の設問に対し、「いる」が65.0%であった。教師と児童、学校と保護者、それぞれの間に認識と感じ方の違いがある。
- ・規範意識に関連する設問「あなたは、児童生徒の規範意識をはぐくむ指導に取り組んでいる」に対し、教職員は「指導に取り組んでいる」の設問に、「そう思う」「ややそう思う」が合わせて100%であるのに対し、児童は、「学校のきまりや約束ごとを守っていますか」に対して、10.8%が「あまりまもれていない」「まもれていない」と回答している。また、保護者アンケート「ご家庭では、お子さんのしつけに力を入れている」の設問に、「よく入れている」、「入れている」が合わせて94.6%であり、「学校は子ども達の間違った行動に対して、指導していると思う」の設問に、「よく指導している」「指導している」が合わせて75.8%であった。
- ・児童アンケートで「将来の夢や目標を持っていますか」の設問に対し、64.3%が「しっかり持っている」と回答している。その割合を学年で比較すると、学年が上がるに従って低くなり、5年生で61.4%、6年生に至っては31.1%であった。低学年においては、設問が意図する回答を得ることが難しい点もあると思うが、学年が上がるに従って割合が下がるのは、自分の持つ能力・適性と職業について、真剣に考え始めていることの表れではないかと考える。



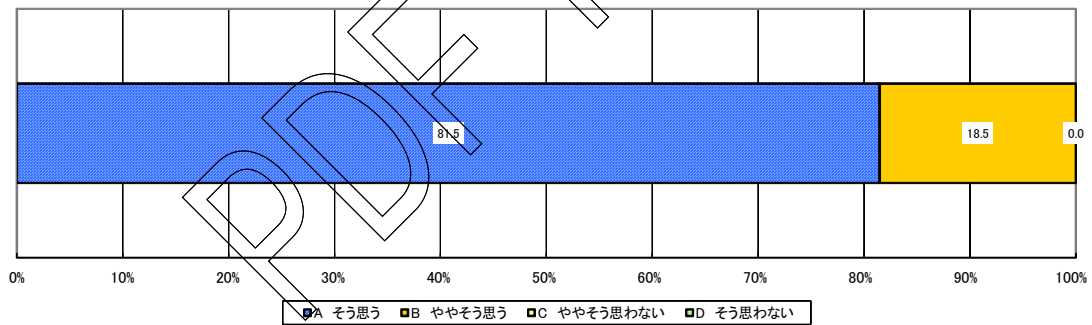
Q9 こまったことがあったら、相談できる先生がいますか。



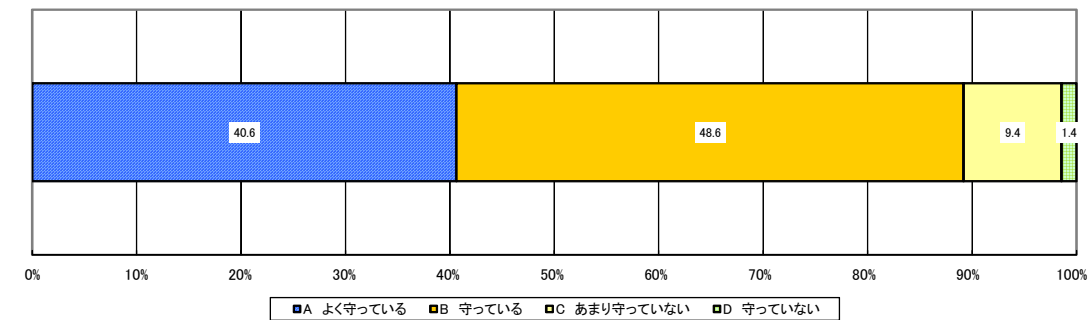
Q15 お子さんのことで、相談できる先生がいますか。

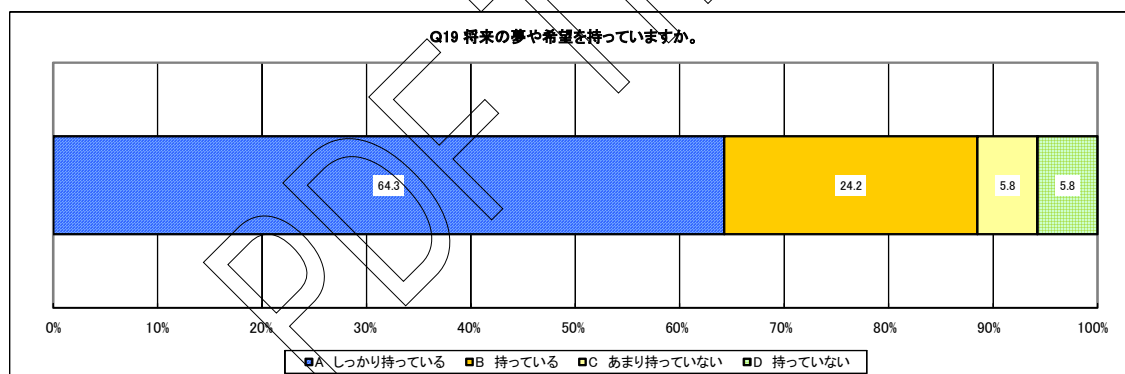
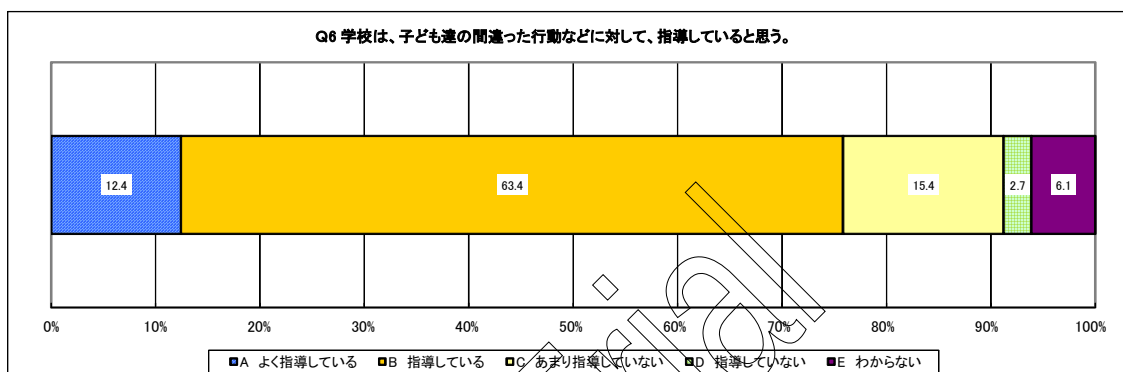
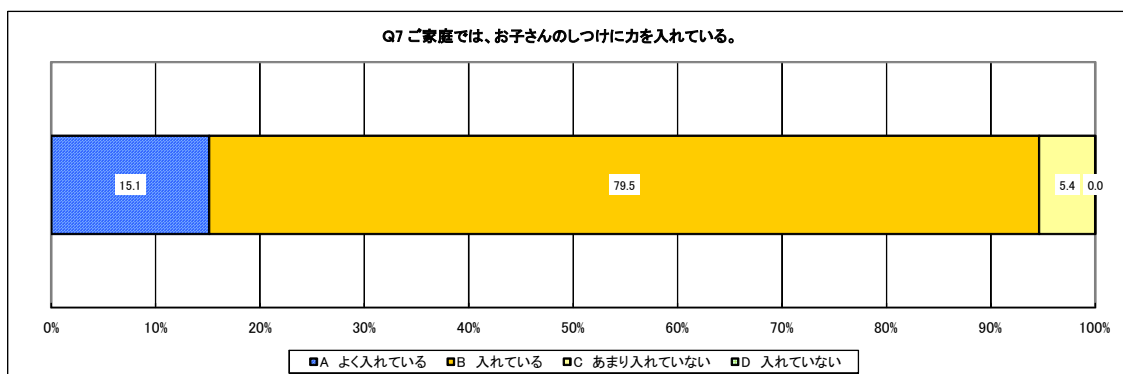


IV-2 あなたは、児童生徒の規範意識をばぐむ指導に取り組んでいる。



Q20 学校のきまりや約束ごとを守っていますか。





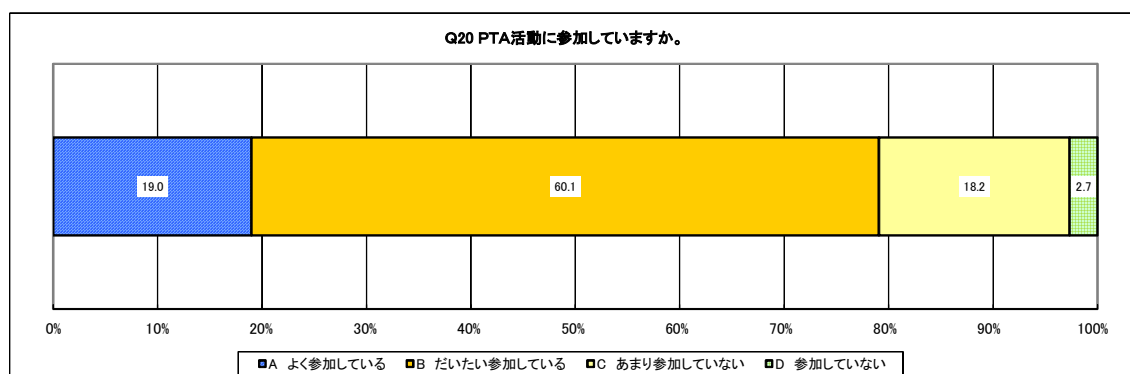
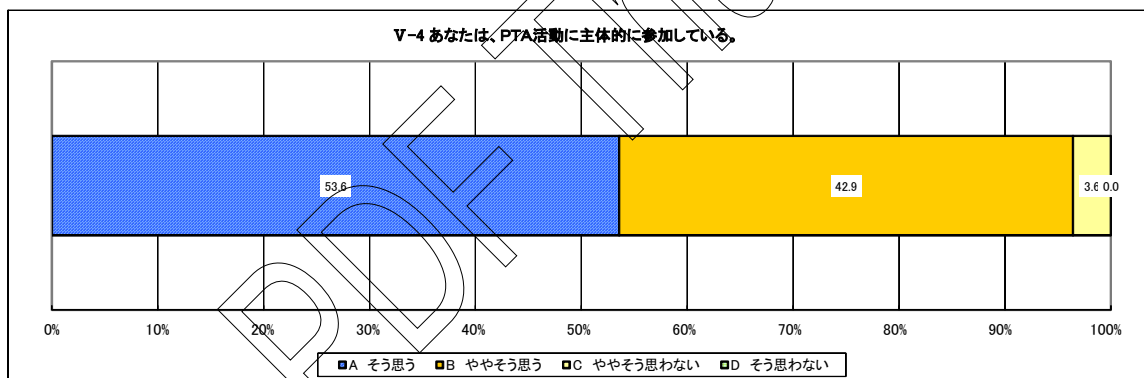
改善策

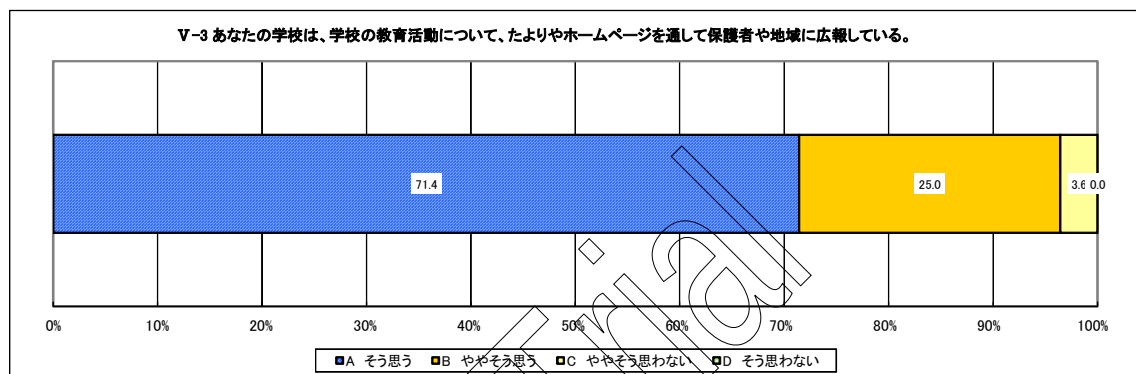
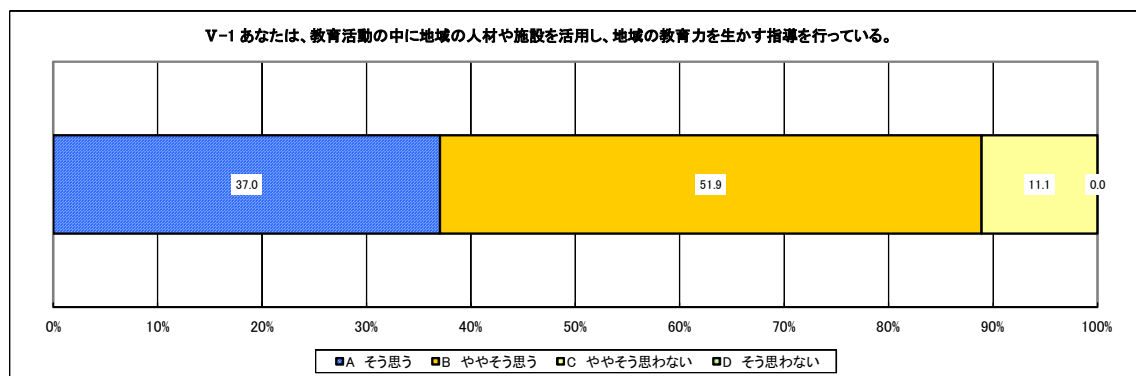
- ・ 日頃から学級経営の充実を図るとともに、児童理解については、カウンセリングマインド（受容、人格の尊重、共感的理解）の手法での対応で児童との信頼関係を深めていく。
- ・ 家庭との情報交換や教育方針の共有を図るとともに、学習や生活上の個別相談、あるいは家庭訪問等により問題への早期対応、早期解決を図る。その際、必要に応じて、S C（スクールカウンセラー）やS S W（スクールソーシャルワーカー）といった専門家や教育委員会といった関係機関と連携していく。
- ・ 規範意識や思いやりの心などの育成は、道徳の時間を要とし教育活動全体に位置づけて行う。特に集団宿泊体験、自然体験、奉仕体験など体験を通した道徳的実践力を育成する。また、地域の人々や高齢者、障がい者との交流を促進する。
- ・ 望ましい勤労観や職業観の育成や社会を自立して生きる力をはぐくむため、教育活動全体にキャリア教育（人間関係形成能力、情報活用能力、意志決定能力、将来設計能力等の育成）を適切に位置づけることはもちろん、ものづくりや生産活動といった体験活動を位置づける。また、家庭や地域と連携して、働くことの意義、家の手伝い、地域の奉仕活動等への参加促進を図る。

V 地域との連携について（保護者用アンケート等も含めて）

達成状況

- ・教職員アンケートで「あなたはPTA活動に主体的に参加しているか」の設問に、「そう思う」「ややそう思う」が合わせて96.5%であった。これに対し、保護者アンケートの結果は、「よく参加している」「参加している」が合わせて79.1%であり、20.9%が「あまり参加していない」「参加していない」と回答している。この割合は前年度同期とほぼ同じである。教職員は各専門部等の事務局を兼ねるために参加意識が比較的高く、一方、保護者においては、役員以外は積極的に参加をしていない実態があるのではないかと考える。
- ・保護者や地域の方々による学習支援に関して、教職員アンケートで「教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす活動を行っている」の設問に対し、「そう思う」「思う」が合わせて、88.9%であった。総合的な学習の時間や生活科の学習で多くの支援を得ている実態がある。
- ・教職員のアンケートから、情報の提供に関し、「学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している」の設問に対し、「そう思う」「思う」が合わせて96.4%であった。学校だよりや学年、学級だより、HPを通じて、教育活動が積極的に発信されていることがうかがえる。





改善策

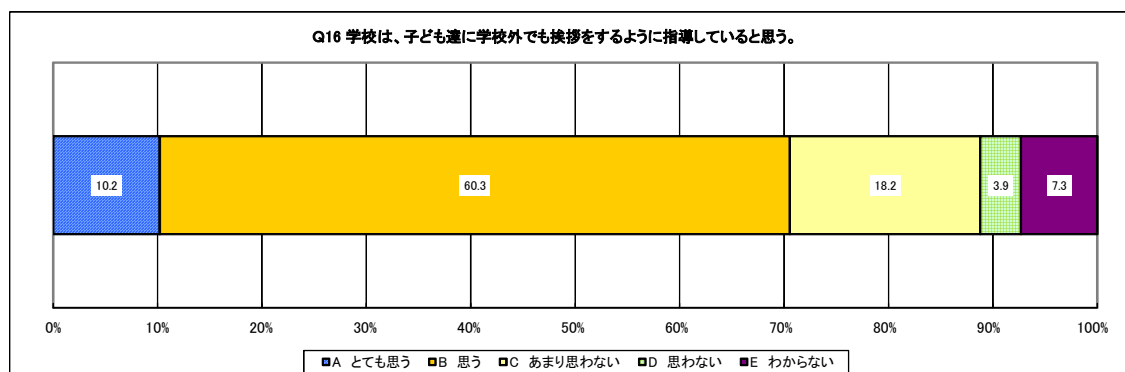
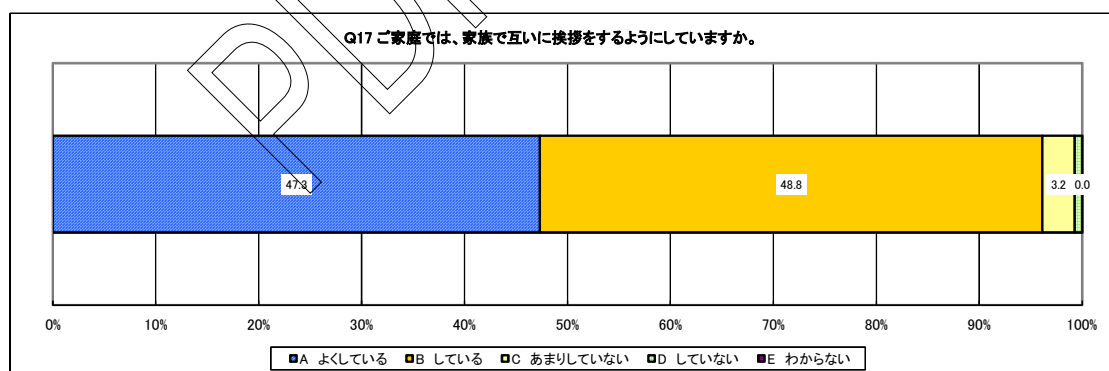
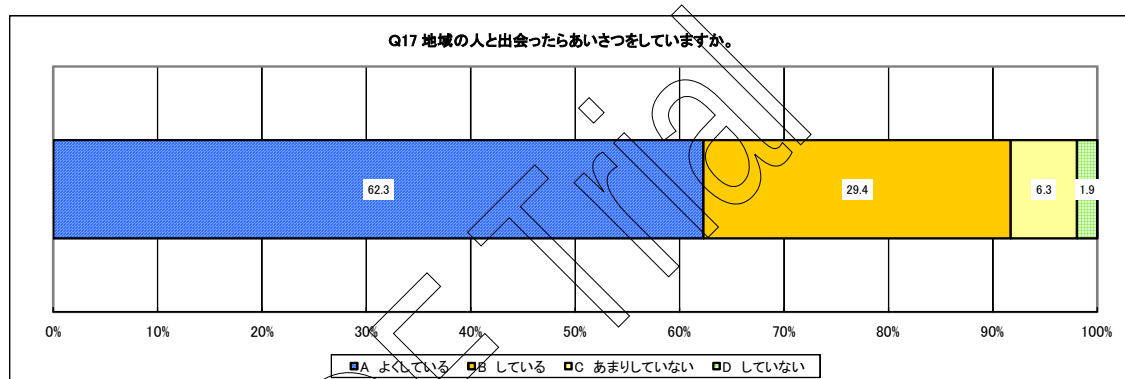
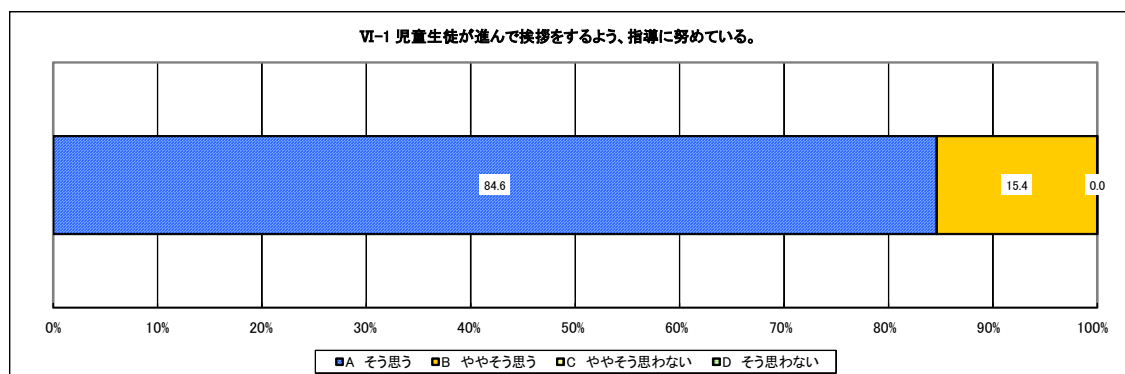
- ・教育に対して、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を担い、責任を持つためにもPTA活動については、保護者に主体的に関わってもらう必要がある。このため、参加意識の啓発と機会の確保、各専門部の事務局を漸次移行していく方向を考えていく。
- ・学習支援や学校環境保全、安全安心の確保など地域と一体となって教育活動を展開することにより、児童の学習意欲も喚起され、また、教師と子どものふれあう時間も増える。人材バンクの活用や現在ある学校独自のバンクの整備と活用をしている。
- ・開かれた学校づくりのため、教育活動や学校運営の状況について、積極的に情報を発信してきた。今後学校への理解と支援を図っていくためにも、情報の積極的な発信を推進する。

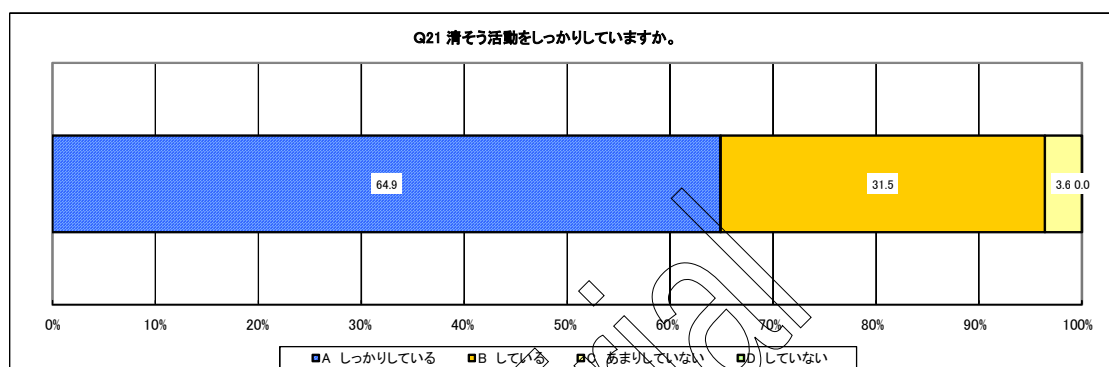
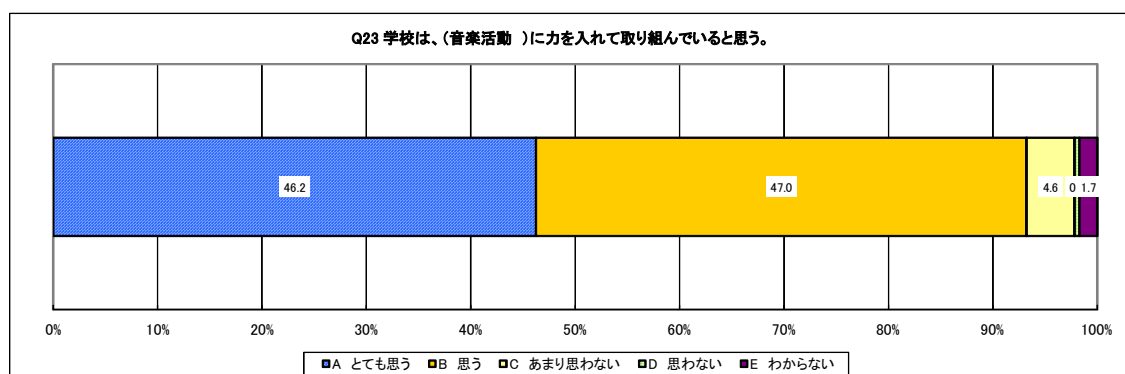
VI 学校の特色に関して

達成状況

- ・挨拶に関連して、教職員のアンケートで「進んであいさつするよう、指導に努めている」の設問に対し、「そう思う」「思う」が合わせて100.0%であった。児童アンケート「地域の人と出会ったらあいさつをしていますか」に対し、「よくしている」「している」が合わせて91.7%である。保護者アンケート「ご家庭では、家族で互いに挨拶するようにしていますか」に対し、「よくしている」「している」が合わせて96.1%であった。また、「地域の人々に出会ったら挨拶をするように言っていますか」に対し、「よく言っている」「言っている」が合わせて90.0%であった。学校、家庭での指導と実践が児童に定着しつつあることがうかがえる。
- ・保護者アンケート「学校は音楽活動に力を入れて取り組んでいると思う」に対し、「そう思う」「思う」が合わせて93.2%であった。全校合唱、音楽集会、合唱部の活動等、本校の音楽活動は地域や保護者によく理解され、高い評価を得ている。

- ・児童アンケート「清掃活動がしっかりできていますか」では、「そう思う」「思う」が合わせて96.4%で、前期と概ね同じである。「無言清掃」など各種指導を取り入れた結果としての成果が上がっていると思われる。





改善策

- ・職員会議や生徒指導委員会の機会に、挨拶への取り組みについて共通理解を図り、その指導（朝や帰りの挨拶、職員室への用事の際の入り方と出方等）に努めてきた。また、児童自身も児童会活動の柱として、正門での呼びかけ等を行ってきた。このような取り組みが年度当初と比較し、挨拶ができるようになった要因であると考えられる。今後も継続した指導や取り組みを続けあいさつがしっかりできる児童の育成を目指す。
- ・本校の特色でもあるファミリーグループの活動は、放課後や週末における地域での異年齢集団の活動の減少を考えると、学校の教育活動として、欠かすことのできない活動である。活動形態や内容の工夫を児童と考え、仲間づくりや思いやりの心をはぐくむことや運動の日常化を図る上で強化していきたい。
- ・音楽集会や合唱部の活動は集団への所属感と学校への誇りと愛着をはぐくむ活動として、本校の大きな特色ある活動である。今後も積極的に推進していく。
- ・日々の清掃活動の他、児童会活動としても「無言清掃」「敷小キレイキレイ作戦」「校舎ピカピカ作戦」と銘打って取り組んできた。勤労の尊さを学んだり、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を育成する上でも、師弟同行を活動の中核に今後も取り組んでいく。

3 まとめ

<成 果>

- ・教職員が共通意識と協働精神とを持って教育活動や学校運営に取り組んできた。学校教育目標である「知、徳、体の調和のとれた、人間性豊かな児童の育成」の具現化に向け、校内研究（ここ4年間、市の研究指定校）で国語力の向上と言語活動の充実等に取り組んできた。教育活動に言語活動を効果的に取り入れることで、話す、聞く、書く、読むといった能力が向上しつつある。また、「あいさつ運動」では、児童と一体となった取り組みを行ったことで、挨拶だけではなく、日常の話し言葉も丁寧になり、場面にあった話し方も向上した。「人より先に、あいさつをしている」児童の割合も徐々に増えてきている。
- ・教育活動や学校運営の状況について、学校・学年・学級便り、ホームページ等で、積極的に情報提供したことで学校への理解を得ることができている。個人情報や

情報セキュリティを確保する中で、さらに情報の提供に努めていきたい。

- ・ファミリー活動（縦割り班活動）の内容の工夫と計画的な取り組みにより、異年齢間の交流が深まり、それぞれの学年にふさわしい行動様式や自覚が児童に育ち本校の伝統となりつつある。

＜課 題＞

- ・教職員の自己評価や児童アンケート、保護者アンケートにより、教育活動や学校運営に対する実態を捉えることができた。学校評価結果を踏まえ、P→D→C→Aサイクルに基づいた教育活動や学校運営の改善を図ることが、家庭や地域に信頼される学校づくりに繋がる。絶えず問題意識を持ち、日常の教育活動に専念する必要がある。
- ・今後もいじめや不登校、規範意識や社会性の欠如、学力低下や学力格差といった児童生徒を巡る状況、少子高齢化や情報化・国際化の進展、環境問題等の社会の変化など、このような諸課題や現状に対処していくために、学校は家庭や地域と一体となって教育活動を展開していく必要がある。このため、開かれた学校づくり、責任ある学校運営、教員の資質・能力の向上は欠かすことができない。授業参観や懇談会の定期開催、PTA活動の活性化や学校評価結果の公表、積極的な情報提供、さらには、校内研究や自己研修の活性化に努める必要がある。